

参加記

Neuroscience 2019 参加記

金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科

脳神経医学分野 河崎洋志研究室

博士課程 1年 齋藤 健吾

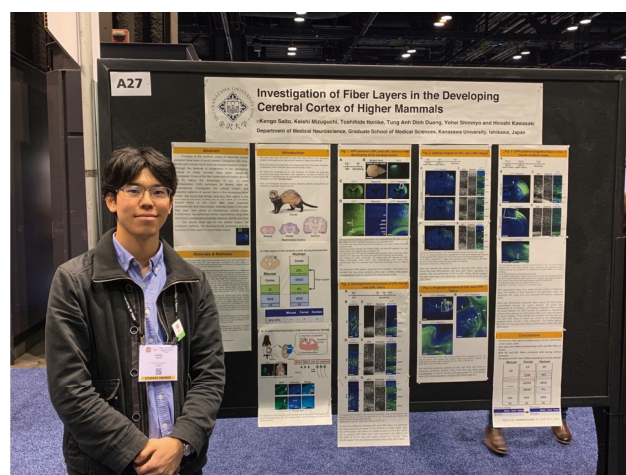
JNS-SfN Exchange Travel Award のご支援をいただき、2019年10月19～23日にシカゴにて開催された北米神経科学学会 (SfN) の Neuroscience 2019 に International Fellow として参加させていただきました。初日には International Fellows Orientation Session と International Fellows Poster Session に参加する機会を頂きました。International Fellows Orientation Session では、ひとりひとりの自己紹介と、他の International Fellow の方と一対一で手短かに自己紹介を行うというエレベータートークの練習を行いました。初対面の方と話が通じるのか、自分の英語が通じるのかという不安はありましたが、始めてみると意外にもそれぞれの研究の話から話が弾み、自分の心配は杞憂に終わりました。その日の夜には International Fellows Poster Session があり、こちらでは軽食を取りながら研究の議論を行い、同年代の同じフェローの方々と交流を深めることができました。特にフランスやアルゼンチンの Fellow の方とは研究分野が近く、話が盛り上がりしました。

私は今回、フェレットにおける発生期大脳皮質の神経線維層についての研究成果を報告させていただきました。Neuroscience 2019 のポスター発表は学会最終日にありましたが、そこでは多くの研究者にお越しいただき議論することができました。また、私が見に行ったポスターの発表者の方々が逆にポスターを見に来てくださり、交流を深めることができました。後にメールをしてくださり、より深い議論をすることができたケースもありました。

今回私は学会参加にあたって2つの目標を掲げていました。1つ目は自分の発表に対して海外の研究者からフィードバックをいただくこと、2つ目は留学への足がかりにすることです。私は学位取得後に海外でポスドクを行うことを選択肢として考えていますが、海外での生活や言語面でハードルを感じていました。しかし、今回学会に参加させて頂いたことで心理面のハードルが大きく下がりました。特に、驚いた点は外国の方がとてもフレンドリーだったことです。もしかするとシカゴ特有の気質かもしれませんが、道に迷った時に声をかけていただいたり、電車に乗り遅れそうな時に「急いで！」と言

われたりなど、アメリカ人の優しさを感じました。研究面でも英語での議論やコミュニケーションを当初の予想よりも問題なく行うことができたように思います。また、現在留学中の方々からのお話を聞くことで、留学というプランを漠然としたものからより現実味を帯びた形でイメージできるようになりました。

シカゴは高層ビル街や、整備された公園、個性的なモニュメントが多くあって非常に綺麗な街でした。名物のシカゴピザやチャイナタウンでの食事でも堪能でき、また来てみたい場所のひとつになりました。再び SfN の学会へ参加し発表できるようこれから一層研究に励んで参りたいと思います。私はこれまで大きな国際学会の経験がなく渡米も初めてのことで、学会の参加にあたり不安を感じていましたが、結果的には大変に充実した時間を過ごすことができました。このような貴重な機会を与えてくださいました日本神経科学学会ならびに SfN の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。また研究発表に際してご指導下さいました河崎先生をはじめ、研究室の皆様がこの場をお借りして深く感謝申し上げます。



自身のポスター前での執筆者